

茂原市総合計画推進会議 令和6年1月16日 午前10時 504会議室

出席者

関谷昇 会長（国立大学法人千葉大学教授）
緑川昭夫 委員（大多喜ガス株式会社代表取締役社長）
落合精一 委員（千葉銀行茂原支店支店長）
木村大樹 委員（連合千葉外房地域協議会長生茂原地区連絡会事務局長）
佐久間尉介 企画財政部部長
佐久間栄一 企画財政部次長（企画政策課課長）
野口栄孝 企画政策課課長補佐
深山弘幸 企画政策課企画調整係長
山田隆二 企画政策課主査
小川貴史 企画政策課主査
大塚優介 企画政策課主事

（欠席）松本光男 委員（茂原市自治会長連合会会長）
（欠席）伊藤信博 委員（茂原市小中学校校長会副会長）

（事務局）

委員の皆様におかれましてはお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

私は本日の司会を務めさせていただきます、企画政策課の佐久間と申します。よろしくお願いたします。

初めに申し上げますが、茂原市では情報公開条例により、会議は原則として公開することとしておりますので、ご了承くださいますようお願いいたします。

なお、本会議は定刻までに傍聴の申込がありませんでしたので、公開会議とした上で「傍聴者なし」として進めさせていただきます。

それでは、ただいまより茂原市総合計画推進会議を開会いたします。配布してあります会議次第に沿って進めさせていただきます。

次第の2 委嘱状伝達ですが、今回、茂原市自治会長連合会におかれましては 西條様から松本光男様に、茂原市小中学校校長会におかれましては 金澤様から伊藤信博様に、千葉銀行茂原支店におかれましては長岡様から落合精一様に、それぞれ委員の変更がございました。

なお、松本様、伊藤様におかれましては本日ご欠席のため、本日は落合様に委嘱状の伝達をさせていただきます。

（落合委員に委嘱状伝達）

続きまして、次第の3 企画財政部長あいさつということで、佐久間部長よりご挨拶を申し上げます。

（佐久間部長）

本日はご多幸の中、お集まりいただきありがとうございます。

また、皆さまには日頃より市政各般にわたってご協力いただいておりますことを、重ねてお礼申し上げます。

本日の会議では、昨年度に引き続き「第2期 茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく令和4年度の取り組みについて委員の皆さまに評価をいただきます。忌憚のないご意見、ご提言をお寄せいただき、今後に活かしてまいりたいと考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

以上簡単ですが、あいさつとさせていただきます。

(事務局)

次に次第の4 委員紹介ですが、恐れ入りますがお一人ずつ自己紹介形式で、併せてご挨拶もお願いできればと思いますのでよろしくお願いいたします。

(関谷会長、緑川委員、落合委員、木村委員 挨拶)

ありがとうございました。

続きまして、事務局のご紹介をさせていただきます。

改めまして、佐久間企画財政部長でございます。

企画政策課 野口課長補佐でございます。

深山企画調整係長でございます。

山田主査でございます。

小川主査でございます。

大塚主事でございます。

最後に、私、企画財政部次長兼企画政策課長の佐久間でございます。改めましてよろしくお願いいたします。

会議の進行につきましては、茂原市総合計画推進会議設置要綱第6条「推進会議は、会長が招集し、その議長となる。」に基づき、関谷会長に議長をお願いいたします。

(関谷会長)

それでは、会議を始めさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

今の話もありましたように、今日の会議は、茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について、今の動き等について、皆様方から忌憚のないご意見を頂戴しながら進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それではまず、議題1つ目ということで令和4年度の茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

それでは着座のまま失礼いたします。

茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略における令和4年度の効果検証につきましてご説明を申し上げます。

「茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における令和4年度の効果検証につきまして、ご説明申し上げますが、改めまして、茂原市における「茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について、簡単にご説明したいと思います。

日本の人口は、2008年(平成20年)をピークに減少に転じており、人口減少による消費・経済力の低下が、今まさに、日本の経済社会にとって大きな負担となっております。そこで国は、国民の希望を実現し、人口減少に歯止めをかけ、2060年に1億人程度の人口を確保するために、人口減少克服と地方創生を合わせて行うとしました。国は、本部長を当時の安部首相とする「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、「まち・ひと・しごと創生法」を2013年(平成25年)に制定、2014年(平成26)に、人口減少や東京一極集中の危機に対処するため「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を打ち出し、本市もそれに合わせ、2015(平成27年)に第1期目となる「茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定、2021年(令和3年)に総合計画の策定に合わせ、現在進行しております、第2期「茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定いたしました。

茂原市の総合戦略は、4つの「基本目標」(①産業が力強く成長するまち ②結婚・出産・子育てを応援するまち ③活力と賑わいにあふれるまち ④誰もが安心してくらするまち)、及び横断的な目標を定めております。

体系的には、「基本目標」があり、基本目標の下に「施策の基本的方向」があり、その下に「具

体的な施策」がぶら下がる形です。

基本目標毎には「目標値」を設定、また、基本目標の下に「施策の基本的方向」、さらに「具体的な施策」を定め、具体的施策にはそれぞれ「KPI」（重要業績評価指標）を設定しています。そして、総合戦略の基本目標を達成するために47の「主要事業」を実施しています。

以上が、簡単ではありますが本市の総合戦略の体系となっております。

資料1ページをご覧ください。「基本目標1 産業が力強く成長するまち」です。

まず、「数値目標の実績値」ですが、「市内事業所数」の令和4年度の実績値は2,268件で、数値目標の2,293件を下回っておりますが、基準値である令和元年時を上回っております。

次にKPIの実績値の主なものを申し上げます。

(1)①の企業立地奨励金等の交付を受けて企業立地した件数は0件、②の創業支援等事業計画に基づき創業した件数は1件となった一方で、

(2)①、販路拡大の取り組みへの支援件数は13件、③の認定農業者数の累計は66件で数値目標を上回り、新規就農者数の累計は22件と順調に推移しております。

次に、2ページをご覧ください。「基本目標2 結婚・出産・子育てを応援するまち」です。

まず、「数値目標の実績値」ですが、合計特殊出生率につきましては1.18、出生数は432人で、数値目標及び基準値を下回っております。

「今後もこの地域で子育てしていきたい」と回答した市民の割合ですが、アンケートは令和6年度に実施する予定であり、令和4年度はアンケートを実施しておりません。

次にKPIの実績値の主なものを申し上げます。

(2)②の「地域子育て支援拠点事業所の数」が5か所と目標値となった一方、(1)の①、「思春期から妊娠・出産・子育て期までの支援の取り組み数」は1,961件、「特定不妊治療費等助成金交付件数」は25件で基準値を下回っております。

また、(2)③の「ファミリーサポートセンター会員数」につきましては合計123名で順調に推移する一方、「マッチング件数」は80件と減少傾向にあります。

次に3ページをご覧ください。「基本目標3 活力とにぎわいにあふれるまち」です。

まず、「数値目標の実績値」ですが、ハローワーク茂原による有効求人倍率は、0.92倍で数値目標1.0倍を下回っておりますが基準値を上回りっております。観光入込客延べ人数は、460,646人で、基準値、目標値を下回っておりますが、これは、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により茂原七夕まつり、桜まつりといった本市の主たるイベントが未開催だったためでございます。

次にKPIの実績値の主なものを申し上げます。

(2)③まちの魅力の発信に関する指標はすべて目標値を上回り、順調に進んでおります。

一方で(2)の①、茂原公園における各種イベント参加人数が77,000人、②の健康寿命の延伸に向けた運動教室の参加者数が20人とイベントの参加人数が伸び悩んでおりますが、こちらも新型コロナウイルス感染症の拡大の影響と考えられます。

次に4ページをご覧ください。「基本目標4 誰もが安心して暮らせるまち」です。

まず、「数値目標の実績値」ですが、「自主防災組織カバー率」は66.90%で数値目標72.54%を下回っておりますが、基準値を上回っております。「刑法犯罪認知件数」は、396件で減少傾向にあります。

次にKPIの実績値の主なものを申し上げます。

(2)②圏央道3か所のICの出入量は326万台で目標値を大幅に上回っておりますが、(2)①、市民バス・デマンド交通の利用者数は18,969人、②の高速路線バス利用者数は13,201人で目標値、基準値を下回っております。

その他の指標につきましては順調に推移しております。

次に、5ページをご覧ください。「横断的な目標 地域力が暮らしを支えるまち」です。

まず、「数値目標の実績値」ですが、「社会増減数」は、837人で目標値を大きく上回ってお

ります。「自治会加入率」は53.5%で基準値を下回り、「市民活動支援センターにおける窓口での相談支援件数」は39件で目標値、基準値を下回っております。「市民活動団体の認定数の累計」は、33団体と数値目標40団体は下回ったものの順調に推移しております。

次にKPIの実績値の主なものを申し上げます。

(1)の「① 活発なまちづくりの推進」の指標は今申し上げましたとおりで、②の審議会等における女性委員の登用率は24.4%で、目標値は下回ったものの基準値は上回り順調に推移しました。③の、地図情報システムによるオープンデータ数は26件、オンラインで完結できる手続きの数は0、申請手続きがオンラインで行われた割合は0と進んでおりません。

総合戦略の全体的な評価としましては、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響による参加型事業が全体的に低迷しましたが、市内企業の販路拡大や創業支援への取り組みは一定程度進み認定農業者や新規就農者の増が図られたほか、市の魅力の情報発をはじめ、妊娠、出産の支援、安心して子育てができる環境づくりや公的支援の充実、災害体制、防犯対策の充実が図られたものと評価しております。

次に、6ページをご覧ください。

こちらは本市総合戦略における数値目標・KPIを他自治体と比較したものとなっております。比較対象自治体としましては、現時点で令和4年度分の効果検証をウェブページに公表している自治体の中から、人口規模が比較的近い「木更津市」「君津市」「東金市」を選定いたしました。

まず、基本目標1のKPIの「累計新規就農者数」につきましては、茂原市が22件のところ木更津市は9件となり、13件上回っております。

次に、基本目標2の数値目標の「合計特殊出生率」につきましては、茂原市が1.18のところ千葉県平均が1.18であり、差はありません。「出生数」につきましては茂原市が432人のところ木更津市は948人であり、516人下回っております。

次に、基本目標3の数値目標の「有効求人倍率」につきましては、ハローワーク茂原が0.92倍のところ千葉県平均が1.06倍となっており、0.14下回っております。「観光入込客延べ人数」につきましては、茂原市が460,646人のところ東金市は1,112,985人であり、652,339人下回っております。KPIの「空き家バンクの累計契約件数」につきましては、茂原市が14件のところ木更津市は12件であり、2件上回っております。

次に、基本目標4の数値目標の「自主防災組織力パー率」につきましては、茂原市が66.9%のところ木更津市は53.1%であり、13.8%上回っております。「刑法犯罪認知件数」につきましては、茂原市が396件のところ君津市は420件であり、24件下回っております。KPIの「市民バス・デマンド交通の利用者数」につきましては、茂原市が18,969人であり東金市が13,953人であり、5,016人上回っております。

次に、横断的な目標の数値目標の「社会増減」につきましては、令和4年単年度で比較しますと、茂原市が437人のところ木更津市は721人であり、284人下回っております。「自治会加入率」につきましては、茂原市が53.5%のところ東金市は61.2%であり、7.7%下回っております。

全体といたしましては、合計特殊出生率は県平均となったものの、出生数・社会増数は木更津市を下回っております。その一方で、自主防災組織力パー率は木更津市を大きく上回り、刑法犯罪認知件数も君津市を下回るなど、他自治体と比べ、基本目標4「誰もが安心して暮らせるまち」に関する取り組みが進んでいるものと考えております。

7ページから11ページをご覧ください。基本目標ごとの主要事業の取り組み状況です。A評価が十分な成果を挙げた、BCDとなるにつれ評価を落としていきます。50の主要事業の内、A評価が25事業で50%、B評価が24事業で48%、C評価が0事業、D評価が1事業で2%となっております。

D評価となった事業につきましては、8ページをご覧ください。KPIの実績値、(2)③の子育ての公的支援の充実の中の放課後子ども教室推進事業は、夏休み期間中の子供の安全・安心な居

場所づくりと異年齢交流、地域教育力の活性化を目標に夏休みこども教室を開催することで、「青少年健全育成の充実」に寄与する事業ですが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、会場となる小学校が使用できず、全学校で中止となったものです。今後は、新型コロナウイルス感染症が収束するまでは、定員を減らし、また、感染防止対策に留意し、内容を見直し、実施を検討していくとのことでした。

次に、12ページをご覧ください。

総合戦略における目標人口と実績値です。

まず、1の目標人口と実績値ですが、茂原市人口ビジョンにおける2040年の本市の人口は70,982人になると推計し、目標人口は80,000人としております。2023年4月1日現在の本市の人口の動向につきましては、実績値は87,096人となり、目標値87,799人を703人下回りましたが、推計値86,491人を605人上回ったところであり、総合戦略での事業実施には一定の効果があつたものと評価しています。

2の合計特殊出生率につきましては、2020～2025年の目標値を1.55としておりましたが、先ほども申し上げましたとおり、2022年の合計特殊出生率は1.18となり、前年から0.08ポイント増加したものの、目標値には届いていない状況です。（合計特殊出生率自体は、過去と比べると大きく減ってはいない。結婚し子どもを設ける夫婦、もしくは婚姻自体が減っていることが人口減少の原因と考える）

また、2022年の全国の合計特殊出生率は1.26で前年の1.30から0.04ポイント下がり、千葉県は1.18で前年の1.21から0.03ポイント下がりました。本市は千葉県とは同水準ですが、全国平均を0.16ポイント下回っております。

3の年代別人口につきましては、表のとおりとなっております。全体的な傾向としましては、年少人口が少なく、高齢者人口が増加しており、高齢化率は34%となっております。

次に、13ページをご覧ください。

「令和4年度地方創生推進交付金事業」についてご説明いたします。

令和4年度に取り組んだのは、「効果的な情報発信を目指した地域内人材エコシステムの構築事業」であり、基本目標3「活力とにぎわいにあふれるまち」の「まちの魅力発信」に位置付けた事業となっております。

これは、本市の魅力や地域資源の発掘から情報発信まで、すべてを市民が行える体制を整備し、その中でも高い情報発信力を持ち、継続して茂原市に関する情報発信を行うキーパーソンを育成し、官民一体の情報発信体制を構築しようとするもので、本事業は令和3年度から5年度までの3か年で取り組む事業として国の認定を受けております。

令和4年度の決算額は9,000,000円で、その内1/2である4,500,000円が交付金、残りの1/2一般財源となっております。

KPIの達成状況ですが、1番目の茂原市公式SNSのリツイート、シェアは目標値を大きく上回っており、SNSを活用した情報発信では、本市のPR、知名度の向上に一定の成果があつたものと考え事業評価はBとしております。残念ながら、2番目と3番目は目標に至っておりません。

主な事業の内容としましては、情報発信人材育成に関するセミナーを開催し、延べ73名の方に参加いただきました。このセミナーにおいては、著作権やパブリシティ権等の権利や、SNS等において茂原市の魅力を発信するのに有効な内容や情報発信タイミングについての講義を受けました。

また、この事業に関連して市内で撮影が行われた映画『ファミリア』の展示会と監督・出演者トークイベントを開催いたしました。映画『ファミリア』の成島出（いずる）監督は茂原市と東京都で二拠点生活を送っているため、トークイベントにおいても本市の住みやすさなどの魅力をPRしていただくことができたほか、本イベントには日本全国から作品のファンが訪れ、イベント終了後にはイベント参加者のSNS投稿により広く本市のPRが行えたと考えております。

本イベントには多くの市民の皆さんがボランティアで運営に参加していただいております。今後も引

き続き、市民と連携したキーパーソンの育成及び効果的な情報発信に努めてまいります。

最後に、14ページをご覧ください。

「令和4年度 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金効果検証」について、ご説明いたします。

「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」は、令和2年4月に閣議決定された「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」において創設されました。

令和4年度は本市における新型コロナウイルスの感染拡大を防止するとともに、感染拡大の影響を受けている地域経済や住民生活を支援と原油価格や電気・ガス料金を含む物価高騰の影響を受ける市民や事業者を支援することを目的として、全49事業、7億3,933万3,880円の交付金を活用し、事業を実施いたしました。

主な事業をご説明いたします。

はじめに、15ページ、No.19「市民体育館感染防止対策事業」として、茂原市民体育館メインアリーナの換気機能強化のため、空調機を設置いたしました。

次に、16ページ、No.26「茂原市子育て応援チケット配布事業」として、市内登録店舗で利用可能な「子育て応援チケット」を対象児童1人あたり1万円分配布いたしました。

同じく16ページ、No.32「茂原市運送事業者等支援事業」として、原油価格高騰の大きな影響を受けている運送関係事業者に対して、事業の継続を支援するため支援金を交付いたしました。

次に、17ページ、No.42「燃えるごみ専用袋配付事業」として、物価高騰の影響を受ける市民の皆さまへの生活者支援として市内全世帯に対して燃えるごみ専用袋を配布いたしました。こちらの事業は大変好評であったため、No.47に2度目の配付に係る事業を申請し、令和5年度に繰り越して2度目の配付を実施いたしました。

事業の検証の部分は以上となります。

最後に、今月10日、民間の有識者団体である「人口戦略会議」が「人口ビジョン2100」という2100年を視野に入れた長期の人口戦略がまとめられ、岸田首相に提出されました。

この中で、日本の人口は2100年（今年生まれた子が、76歳になるとき）には、人口が6300万人に半減するという推計を出しました。6300万人の人口は、さかのぼること1930年（昭和5年）当時の人口となるのですが、当時高齢化率わずか4.8%の若々しい国でしたが、2100年の日本は、高齢化率40%と「老いた国」となって、産業の競争力の低下、市場の縮小が加速することは間違いないとしています。

今を生きる「わたしたち」現役世代は、しっかりと将来世代に社会を継承していくという点で、後世に対する重い責任があることを正面から問いかける必要があることは避けて通れません。今後の政策議論も含めまして、忌憚のないご意見を頂けますと幸いです。

（関谷会長）

事務局の方から、3年度の事業の実施状況について説明がありました。以上の説明についてご質問、ご意見ありますでしょうか。

（委員）（資料P6）

社会増減数が437人、一方P5社会増減数が837人となっているがその違いは。

（事務局）

437人は単年、837人は累計の数字である。

（委員）（同上）

観光入込客数が東金市と差があるが、東金市の集客要因はどのようなものか。

（事務局）

東金市には確認していないが、恐らくイチゴ狩り、道の駅などの観光者数と考える。

(委員) (資料P3)

インターンシップへの参加支援人数が0人とあるが

(事務局)

市内民間企業が、インターンシップとして受け入れた際に市の補助金を交付しているもののため。

(委員)

新たな人材、新たな産業による地元での循環が地方創生として必要である。

(委員) (資料P3)

空き家バンクの契約件数で、茂原市の空き家の数は。多古町では、子育て支援住宅を民間事業者が建設、その後行政が借り上げ、若い世代に転貸することで子育て世代の定住を誘導している。

(事務局)

総住宅数で8,710戸、戸建て数で3,710数(茂原市空家等対策計画:8P県や他市の空き家の状況)

(事務局) (資料P2)

「基本目標2 結婚・出産・子育てを応援するまち」とあるが、結婚分野の行政の支援について、「産めよ、増やせよ」の政策の失敗から、個人の価値観の多様化もあり議論がタブー視されているように思える。若者の価値が多様化する中、行政はどのような支援が求められているのか

(委員)

若者の価値観は多様化している。ネット社会で個人の繋がりがあると思われがちだが、実際は他者との交流が若者は苦手と考える。根本的に他者との交流が減っていることにも起因する。

また、将来への不安から、若者は理想的な家庭像を描けずにいる。ビジョンを描ける支援が求められる。

(委員)

メタバースを出会いの場とした活用例がある。何組か成功したと聞いている。

(委員) (資料P5)

自治会加入率や市民活動支援センターについて言及。

市民活動支援センターの活動団体に対する支援は、個々の活動を対象とするものにとどまっている。活動を促進するためには、異質な団体の横のつながり(市民活動団体×NPO、市民活動団体×民間企業、自治会×市民活動団体等)が重要となる。それを促進するには、各団体の課題の共有と、プラットフォームビルダーとして自治体が場を作ることが不可欠である。

(委員) (資料P1)

新規就農者数について言及。

農業者との意見交換で、農業では生計を立てることは難しいとの声を聞く。自治体から交付される補助金も、「農業研修→初期支援」にとどまり、その先の圃場制度がない状況である。それでは、持続的な農業経営は難しい。一方、高付加価値である有機農法を実践している農家では、いすみ市、木更津市が成功例である。

(委員) (全体)

人口減少に対する人口目標について

流山市、印西市、木更津市は都市開発により人口が増加している。これは、必然的要素である。他の地域では、人口減少することを受け入れ、それに応じた街づくりが必要である。数字目標からの脱却、量的サービスよりも質的サービスの向上を考えることが必要である。

関係人口を引き込むことが、キーポイントとなる。ふるさと納税、企業版ふるさと納税を増やしていくことも、茂原市のファンを増やす（関係人口を増やす）きっかけとなる。

（事務局）

関谷会長どうもありがとうございました。

皆さん本当に様々なご意見いただきまして、ありがとうございました。

今後、私ども事業に反映させていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

以上をもちまして、総合計画推進会議を閉会とさせていただきます。

本日はありがとうございました。

以上